

ある日の育児日記から
 **** (26) 佐藤 和代 ****



近所のTくんが、お母さんといっしょに遊びにきました。圭としばらく遊んでいましたが、何かの取りあいをしたのでしょう、泣きながらお母さんのところへ戻ってきてしまいました。

だって、貸してくれない…だって、そっちじゃだめ…だって、だって…。お母さんがなだめてもぐずぐず泣くだけ。気分を変えようとおやつにしてもだめ。圭が新しいおもちゃを出してもだめ。

ところが、Tくんは突然、本当に突然、言ったのです。「お母さん、おまじないして」お母さんは心得たように「ビビデバビデブー！」

これでTくんはすっかり元気になり、おやつをパクパク。私はただただ感心しました。かんしゃくって、ひっこめるきっ

かけがなかなかみつからないもの。Tくんのビビデバビデブー、何てスマートな立ち直りかた！

そういうえば、こんなおまじない、圭にもありません。欲しいものが買ってもらえないとき、ひときりぐずると「小学校にいったらね」と自分で言って、納得するのです。これはいいとばかり、私

の方から「小学生になったらね」と言っても効き目なし。自分で言うところに意味があるのですね。子どもはみんな、こんなおまじないがあるのかしら。いいない便利だな、大人もほしい。

